

1. 2018 年度 重点事項と評価

イ. 渋沢栄一研究者育成：海外研修の実施  
(第一号；守屋淳氏、18 年 4 月 11 日～9 月 28 日、トロント大学倫理研究所)

⇒ 初回は外部研究者が対象であったが、今後は内部職員が対象のプログラムの作成・充実を検討。

ロ. 『渋沢栄一伝記資料』網文英訳：  
2019 年度の公開をめざした公開システム検討

⇒ Web 掲載フォーマットの作成が終了し、2019 年度末頃に第 1～3 巻の公開を予定。4 巻以降についても順次公開を目指す。

ハ. 渋沢史料館リニューアルのための計画案策定

⇒ 新しい展示内容の大枠が決まり、設計業者・展示業者・建設業者を交えた話し合いにより、細部の検討段階へと移行。

## 2. 研究センター

### (1) 重点事項と評価

イ. 研究者育成プロジェクト（海外研修）を実施し、一つの枠組みを確立する。

⇒ 語学研修を中心として守屋淳氏を半年間（2018 年 4 月 11 日～9 月 28 日）カナダ・トロント大学倫理研究所に派遣した同プログラムが終了したことにより、研究者育成プロジェクト（海外研修）の一つの枠組みを確立させることが出来た。今回は、財団外部の研究者を対象とするものであったが、今後、財団職員に対するプログラムの確立も検討すべきと思われる。

ロ. 『渋沢栄一と「フィランソロピー」』シリーズ出版を着実に行う。

⇒ 年度内に第 4 巻研究会を 2 回、第 5 巻研究会を 1 回、第 6 巻研究会を 2 回、第 7 巻研究会を 3 回及び編集会議を 2 回開催した。第 3 巻、5 巻、6 巻の原稿提出もされ、2021 年 3 月までにシリーズ全 8 巻を刊行すべく、着実に計画を進めている。ただ、ここへきて編集作業に手間取り、刊行予定の遅れが出始めている。

### (2) 事業内容

イ. 寄付講座

（イ）華中師範大学寄附講座：「渋沢栄一優秀論文賞」の贈呈に関しては、応募論文がなく選考に至らず、見送りとなった。当方からの専門図書寄贈については、2 年度分を揃えたが実施に至らず、2019 年度分と合わせて寄贈する予定。

ロ. プロジェクト成果の出版

（イ）比較思想プロジェクト：  
前年度（2017 年 12 月 14 日）に国際文化会館にて成果刊行記念シンポジウム「グローバル時代の民主主義を考える」を先行して開催したが、2018 年度中においても刊行に至っていない。

（ロ）フィランソロピーシリーズ出版：

A. 6 月 9 日に第 4 巻研究会、7 月 10 日に第 7 巻研究会及び編集会議、8 月 20 日に第 6 巻研究会及び編集会議、9 月 21 日に第 4 巻研究会、9 月 22 日に第 5 巻研究会、12 月 15 日に第 6 巻研究会、12 月 22 日に第 7 巻研究会、3 月 12 日に第 7 巻研究会を開催した。2021 年 3 月までにシリーズ全 8 巻を刊行すべく、着実に計画を進めている。

B. 2018 年 5 月 13 日に香港城市大学で開催された東アジア文化交渉学会第 10 回大会にて第 6 巻のテーマ（教育・人材育成）によるパネル報告を行う。併せて編集会議を実施。

（ハ）産業技術導入における実業家のリーダーシップ：2019 年 3 月現在、原稿の校正等出版に向けて準備中。

## ハ. 渋沢栄一研究の促進

### （イ）論語とそろばんセミナー

A. 「論語とそろばんセミナー」の開催  
2019 年 1 月 12 日（土）に史料館見学を実施。19 日（土）に東京商工会議所・東商グランドホールにて「論語とそろばんセミナー2019」を開催。

B. 『論語と算盤』読書会の運営  
第 8 期となる今期は、2018 年 9 月 19 日を第 1 回として開催し、以後、2019 年 7 月までに計 11 回開催する予定である。今期の参加者は 30 名である。

C. 経営者インタビューの実施  
企画・監修者の守屋淳氏が、半年間のトロントでの研修のため、実施は見送りとなった。

（ロ）合本主義プロジェクト：トルコと東南アジアを対象とした第 2 フェーズの研究を実施。トルコについては、現在、研究成果の出版準備中。東南アジアについては、2018 年 5 月 25～26 日に東京で第 4 回目となるワークショップを開催した。タイ人研究者 2 名、インドネシア人研究者 4 名、第 1 フェーズにも参加した英・米・仏・蘭の研究者 5 名、日本の研究者 4 名が参加し、各人が研究テーマに即して発表し議論した。また、その後、論文作成上タイ国でのフィールドワークが必要とのことで、島田昌和氏と田中一弘氏両氏によるフィールドワークが 2018 年 9 月 27～29 日の日程で行われた。東南アジアも、原稿が出揃いつつある。

(ハ) 儒商会議：2018 年 8 月 18 日（土）到北京の中国国家會議中心にて開催された第 24 回世界哲学大会内のセッション「第 6 回儒商論域特邀分会」に参加した。直接、渋沢栄一に関する報告はなかったが、企業の倫理、社会貢献、公益性に関して比較検討出来る知見を得られた。

(ニ) 倉敷シンポジウムの開催：2019 年 1 月 13 日（日）に倉敷市・倉敷公民館にて二松學舎大学との共催でシンポジウム「備中の学問と実業家の営みを考える」を開催。当財団からは事業部長兼渋沢史料館長の井上が「『論語』を規範とする渋沢栄一の経営理念」、研究センターの伴野が「近世・近代転換期における備中の学問と大原孝四郎」という題でそれぞれ報告した。

(ホ) 『太平洋にかける橋』英訳プロジェクト：2018 年 12 月に『The Private Diplomacy of Shibusawa Eiichi』というタイトルで英国・Renaissance Books より刊行された。

(ヘ) 協賛・助成・支援事業

A. 協賛:「渋沢・クロード賞」への協賛として、リュシアン＝ロラン・クレルク氏に対し賞金贈呈。

B. 助成:18 件（事業 14 件、出版 4 件）応募のうち 15 件（事業 11 件、出版 4 件）の申請を採択。支援決定金額は計 1,553 万 3,000 円。

C. 支援:経営史学会紀要の英語版“Japanese Research in Business History”の出版を支援。

(ト) 事業部関連事業：予算には計上したが、特に事業は行われなかった。

(チ) 研究者育成プロジェクト：語学研修として作家の守屋淳氏を半年間（2018 年 4 月～9 月）カナダ・トロントに派遣した。研修期間中の 2018 年 9 月 13 日に、トロントにある国際交流基金トロント文化センターにおいて「Harmony Between Morality and Business: The Philosophy of Shibusawa Eiichi」と題して講演が行われた。その後、守屋氏が帰国し、守屋氏の海外派遣に関するプログラムは終了した。

二. 新規プロジェクト：新規プロジェクト準備費を計上していたが、特に新規プロジェクトの準備は行われなかった。

### 3. 情報資源センター

#### (1) 重点事項と評価

イ. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』  
全文公開へ向け、著作権処理による本編の公開範囲拡大・別巻公開準備

⇒ 本編：著作権調査を進め、引用資料 7,357 件を追加公開したことで、第 1～57 巻の公開率を約 92%とした。別巻：マスター・テキスト整備開始。

ロ. 『渋沢栄一伝記資料』網文英訳  
2019 年度の公開開始を見据え、公開システム検討

⇒ 2019 年度末に第一段として第 1～3 巻公開予定、Web 掲載フォーマット作成。

ハ. 情報資源開発・発信の強化  
刊行物を資源化し蓄積・発信するための「機関リポジトリ」公開

⇒ JAIRO Cloud 打診、『渋沢研究』デジタルデータ（PDF）および登録用メタデータを作成し公開準備を進めた。

#### (2) 事業内容

イ. 各種デジタル資料・データベース開発の継続

(イ) デジタルアーカイブ学会第 1 回学会賞（実践賞）受賞（3/15）

(ロ) 社史プロジェクト

A. 「渋沢社史データベース」

(A) 更新（9/7、3/22）：データ約 14,000 件追加、国立国会図書館のサービス変更に伴うリンク・データ修正ほか

(B) 利用状況 (4/1～3/31) :セッション数 447,673 (前年度比 112.56%)、ユーザー数 404,282 (同 117.29%)、ページビュー数 2,301,285 (同 105.95%)、世界 127 カ国から利用

(C) 情報発信: 社史紹介 4 件 (ブログ)、第 20 回図書館総合展ポスターセッション出展 (10/30～11/1) ほか

## B. 渋沢栄一関連事業変遷調査

(A) 「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」典拠情報等のマスター・データ整備環境構築: マスター・データ管理機能設置、新サイト公開 (コンテンツのデータベース化、検索機能設置、英語ページ改訂ほか) (3/29)

(B) 『青淵』「変遷図紹介」掲載 12 件、ブログ「変遷図紹介」掲載 12 件

## C. 実業史資料 (ビジネス・アーカイブズ)

優良事例集 Web 掲載 3 本、メルマガ配信 4 回 (3/31 現在購読者 1,145 名)

### (ハ) 実業史錦絵プロジェクト

デジタルアーカイブにおける国際標準規格に準拠した「実業史錦絵絵引」リニューアル準備中

## (ニ) 渋沢関係情報資源開発

### A. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

(A) 「目次詳細 (綱文)」からデジタル版『伝記資料』本文ページへのリンク設置、引用資料 7,537 件追加ほか

(B) 別巻のマスター・テキスト整備開始、整備内容の検討会開催 (8 回)

(C) 第 29 回 EAJRS (日本資料専門家欧州協会) カンファレンス (於リトアニア・カウナス) でデジタル版「実験論語処世談」デモ (9/14)

### B. 渋沢関係情報発信

<p>(A) Web 上の情報発信（ブログ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「栄一関連文献」4 件追加ほか（ブログ更新 68 日）</li> <li>・「はてなダイアリー」終了に伴いブログ 2 件を「はてなブログ」へ移転（2/6）</li> </ul>
<p>(B) 『青淵』：</p> <p>新連載「わがまちの渋沢栄一」（第 1 回 八基小学校：埼玉県・深谷市）</p>
<p>C. グローバルな情報発信</p> <p>『渋沢栄一伝記資料』網文英訳：1～5 巻再点検完了、Web 掲載フォーマット作成</p>

ロ．実業史研究基盤整備	
(イ) 基盤整備：	資料収集 157 点、資料整理 1,143 点、保存対策（保存箱作成・入替）
(ロ) 環境整備・情報発信	
A. 実業史研究情報資源のネットワークに協力、講演等 8 件	
B. センター事業等に関する記事執筆 20 件	
C. レファレンス回答、Web サイト更新、研修・見学への対応ほか	
D. 企画展等展示記録作成 収蔵品展「渋沢平九郎」前期、後期 計 2 件	

ハ．協力事業	
	国際アーカイブズ評議会（ICA SBA）、渋沢敬三記念事業ほか

#### 4. 学芸課

##### (1) 重点事項と評価

イ. 2020 年 3 月までの完成をめざし常設展示をはじめとした渋沢史料館リニューアルの検討をすすめ、展示等の設計を行う。

⇒ これまでの展示をはじめとした活動での試みや成果、また他館の調査、視察等を行い、収集した最新情報をふまえて、リニューアルの詳細な設計内容の検討を進め、次年度の史料館の常設展示等の改修、制作・工事の実施に向けた準備を行った。今後も調整・検討を重ね、リニューアル実施につなげていくことができる。

ロ. 明治維新 150 年に関わる収蔵品展等を開催する。

⇒ 収蔵品展「渋沢平九郎一幕末維新、二十歳の決断」の展示を行い、従兄である渋沢栄一の養子となった渋沢平九郎が幕末維新期にどう行動したのかを紹介した。また飯能戦争で敗れ自刃した平九郎に対する、栄一の思いを、維新後の追悼事業などを通して紹介した。これまでの資料の整理、調査・研究成果を活かしつつ、狭い空間を効率よく使用し、情報を整理して伝えることができた。今後のリニューアルにつなげることができる。「青淵忌」において、ギャラリートークを開催し、参加者に本収蔵品展への理解をより深めてもらうことができた。本収蔵品展開催にあたり、平九郎ゆかりの自治体である越生町教育委員会、深谷市渋沢栄一記念館、飯能市教育委員会に後援していただいた。後援をいただいた各自治体には、本収蔵品展の周知協力をしていただくとともに、ツアーを組んで来館していただいた。また後援自治体及びその関連団体主催の平九郎関連講演会に担当学芸員が講師として招かれ、当館とのネットワークを深めることができ、新たな資料情報収集を行うことができた。

##### (2) 事業内容

イ. 渋沢史料館入館者数及び史料館収入の推移

2018 年度 入館者合計 25,979 人 入館料収入 6,397,130 円



ロ. 展示	
(イ) 企画展	：0 件
(ロ) 収蔵品展	：1 件
(ハ) 常設展の展示替え	：1 件
(ニ) その他の展示	：2 件

ハ. 教育普及	
(イ) 渋沢栄一命日記念事業「青淵忌」	
(ロ) ワークショップ	2 件
(ハ) 建物解説会	12 件
(ニ) 合同講演会	1 件
(ホ) 小学校への出張授業	1 件
(ヘ) 飛鳥山 3 つの博物館合同事業	4 件

ニ. 資料収集	
(イ) 受贈資料	：7 件
(ロ) 購入資料	：83 件
(ハ) 受贈・交換図書	：約 1,000 件
(ニ) 購入図書	：22 件

(ホ) 製作資料：当館所蔵資料：62 件
----------------------

ホ. 資料整備
(イ) 除塵・防霉作業
(ロ) 資料のくん蒸作業
(ハ) 館内環境調査
(ニ) 資料の代替作業（写真資料複製等）
(ホ) 劣化対策（資料保存容器の製作、刀剣資料研磨・白鞘作成）
(ヘ) 晩香廬虫害調査

ヘ. 資料の活用
(イ) 資料閲覧件数：77 件
(ロ) 資料貸出件数：94 件
(ハ) 展示・出版・放送等協力：178 件

ト. 図書等の刊行
(イ) 図録類：0 件
(ロ) パンフレット類：9 件
(ハ) ミュージアムグッズ類：3 件
(ニ) その他：2 件

チ. 調査・研究

(イ) 館員による執筆・寄稿など：39 件

(ロ) 渋沢栄一の漢詩の訓訳、注釈作成作業

(ハ) オーラルヒストリー事業

(ニ) 当館所蔵「渋沢敬三旧蔵手帳」の翻刻及び調査

(ホ) 渋沢栄一邸に関する調査

(ヘ) 穂積歌子日記関係

リ. 建物公開

国指定重要文化財 晩香廬・青淵文庫内部公開

4 月 1 日～9 月 30 日 10:00～15:45

10 月 2 日～3 月 31 日 10:00～17:00

ヌ. 広報事業

広報記事掲載・放映等実績：52 件

ル. 館員の館外活動

(イ) 講演・講座・出張授業等：43 件

(ロ) 博物館等視察：23 件

(ハ) 資料調査・出品交渉等：12 件

(ニ) 研修会・講演会等への参加：9 件
(ホ) 委員会・打合せ：53 件
(ヘ) 三館関係会議等：38 件（三館打合せ会議：12 件、三館学芸部会議（本会議）：10 件、その他：16 件）
(ト) その他：8 件

ヲ．常設展等リニューアル
常設展等リニューアル実施設計策定

	団体名・申請者名	申請事業名
1	ユネスコ・アジア文化センター	高校模擬国連国際大会への日本代表団派遣支援事業
2	国際文化会館	国際文化会館アーカイブ事業: 戦後日本の国際文化交流史の研究に資するアーカイブの構築
3	日米研究インスティテュート	USJI 若手研究者育成強化事業 (スカラー制度)
4	京論壇東京大学実行委員会	京論壇 2018
5	ポール・クローデル生誕 150 年記念企画委員会	ポール・クローデル生誕 150 年 記念事業 日本とポール・クローデル
6	日本国際交流センター	外国人材の受け入れに関する円卓会議
7	渋沢栄一杯経済史・ 経営史ディベートリーグ	渋沢栄一杯経済史・経営史ディ ベートリーグ
8	日米中関係研究会	「日中 親愛なる宿敵」出版記 念シンポジウムの開催と共同究 会の実施
9	長岡大学松本研究室	長岡開府 400 年記念シンポジウ ム長岡地域の先人たちと渋沢栄 一歴史に学び、未来へ活かすー
10	両大戦間期研究会	東アジアの歴史的転換点:1919 年パリ講和条約のアジアへの影 響と国際社会の変容
11	近代東アジア研究会	近代アジアにおける実業家の果 たした役割に関する総合研究
12	米欧亜回覧の会	岩倉使節団の群像
13	松本佐保	バチカンと国際機関--連盟・国 連との関係を中心に
14	酒井一臣	帝国日本の外交と民主主義
15	宮崎広和	日米人形交流の再検討ー人形・ 交換・子ども

## 6. 総務部

### (1) 支部の状況（2019 年 3 月末現在 18 支部）

諏 訪	京 都	仙 台	山 形	野 田	盛 岡	秋 田
酒 田	宇都宮	香 取	氷 見	加 茂	岡 谷	小 諸
海 匠	茨 城	白 河	深 谷			

※ 支部名に網掛けのあるのは、本部で会費徴収事務を代行している支部

### (2) 維持会員数・会費収入の推移（過去 3 年）

（単位：人数、社数、口数は 1、会費収入は千円）

年度末	個人会員		団体会員			会費収入
	人 数	会費収入	社 数	口 数	会費収入	合 計
2016	1,403	6,900	263	1,339	13,430	20,330
2017	1,364	6,445	256	1,330	13,522	19,967
2018	1,321	6,465	247	1,320	13,230	19,695

### (3) 寿杖

2018 年度 寿杖会員：6 名

(4) 講演会開催

イ. 支部講演会

支部名	講演会開催日	支部名	講演会開催日	支部名	講演会開催日
海 匠	2018/4/19	宇都宮	2018/7/23	野 田	2018/8/24
秋 田	2019/1/21	深 谷	2019/2/17	仙 台	2019/2/21

ロ. 提携講演会（提携先：みずほ総合研究所株式会社）

年 度	東京・関東会場		大阪・関西会場		合 計	
2016	12 回	219 名	12 回	48 名	24 回	267 名
2017	12 回	261 名	12 回	46 名	24 回	307 名
2018	12 回	243 名	12 回	30 名	24 回	273 名

(5) 機関誌『青淵』の発行

2018 年 5 月号（830 号）～2019 年 4 月号（841 号）：発行部数：3,500 部/月

(6) 関連事業

イ. 第 35 回 渋沢クロード賞

ロ. 第 17 回 渋沢栄一賞

ハ. 第 8 回 渋沢栄一ビジネス大賞

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。